

教化計画スローガン

真のよりどころを
明らかにしよう

高田
教区報

響流

第 発行所
109 上越市寺町2丁目24-4
号 真宗大谷派 高田教務所
編集 響流編集委員会
発行 村手 淳 照
印刷 文化印刷(株)



御修復された高田別院鐘楼

鐘楼修復となつて

高田教務所長 村手 淳 照
高田別院輪番

御流罪八百年の年を迎え、いよいよ御法要も目前に迫つてまいりました。四月十四日から十八日までは高田別院、五月二十五日から二十六日までは国府光源寺様において御流罪八百年法要を、翌二十七日には上越文化会館において記念大会を全国の御同朋・御同行とともに勤めてまいりたく存じます。併せて記念事業として、尾神嶽「報尽碑」修復事業と『尾神殉難誌』の増補改訂版の出版や記念俳句大会などを実施してまいります。

親鸞聖人は、越後の大地にあつて、流罪の身の中からお命がけの念仏を称えつづけられ、現代の私たちにまで本願念仏の教えを伝えてくださいました。今こそその念仏の道を我が道として生きていくのか、共々に確かめる時でありましょう。

高田別院では、この度の御法要をお勤めすることから、傷んでおりました鐘楼屋根の修復を依頼いたしました。昨年の院議会で承認を受け、別院特別事業基金の融通と特別寄進を賜りまして、糸魚川市の樋口工務店施工のもとで修復を進め、昨年末に完成となりました。

現在の鐘楼は、天保九（一八三八）年に再建されたものです。当時は、徳川幕府の末期に向かう中、本山の両堂・諸殿が文政の大火（四回のうち、二回目の火災）で焼失し、御影堂・阿弥陀堂が上棟したばかりでした。そのような時代状況下での建立でした。この歴史ある鐘楼も長年の風雪により、思いの外に傷んでおりました。この度、屋根組の全面改修と銅板葺き屋根並びに大棟の全面改修をいただき、別院の鐘楼として調和の取れたものとなりましたこと、偏に皆様方のご懇念の賜と厚く御礼申し上げます。

この度の親鸞聖人御流罪八百年法要におきまして、音色高らかに響き渡るものと存じます。

